

労働力人口の将来推計*

—昭和51年11月暫定推計—

岡崎陽一

はじめに

人口問題研究所は、さきに全国男女年齢別将来人口（昭和51年11月）を発表したが、本資料はこれを基礎にして労働力人口の将来推計値を計算したものである。労働力人口推計の中心となる作業は労働力率の推計であるが、労働力率の最近までの推移を追跡する必要上、年次別データのとれる「労働力調査」に依拠して作業を行なった。したがって、本資料において求められた将来労働力人口は、むしろ労働力調査ベースの労働力人口であり、国勢調査ベースのそれとは性格が異なることに注意する必要がある。

この資料は、以前「労働力人口の将来推計—全国男女年齢別、昭和50～60年—」（昭和50年7月推計）として発表したものを、全国人口推計が改訂された機会に改算したもので、労働力率については以前の推計値をそのまま用いている。機会があれば労働力率の改算も行いたいと考えているが、今回はとりあえず人口だけをさしかえたものである。

なお、この資料は研究資料として発表するものであるが、経済状況の変化に伴い、雇用問題の動向にも重要な変貌が予想される現在、この資料が広く利用されることを期待するものである。

I 推計の目的

一国の保有する労働力人口の大きさは、国の経済活動規模を決定する基本的要因の一つである。同時に、ある将来時点において予想される労働力人口の規模は、国の立案する雇用政策の目標としての意味を持っている。

労働力人口の規模と男女年齢別構成は、一般的に、その背景にある人口の規模と構成によって制約される。その意味で、将来人口推計値が改訂された場合、それに対応して労働力人口の将来推計が行なわれるのが慣例になっている。人口問題研究所は、さきに昭和50年2月の全国男女年齢別将来推計人口に基づく労働力人口の将来推計を発表したが、今回、昭和51年11月の新人口推計が発表された機会にこれを基礎にして労働力人口の将来推計値を計算したものがこの資料である。

労働力人口の将来を推計する場合、作業の中心となる部分は労働力率の将来見通しである。周知のとおり、労働力率は男子の青壮年齢層の場合のように、経済的社会的条件のいかにかわらざほとんど不変の部分もあるが、諸条件の変化に伴って微妙に変動する部分がある。この可変的部分の労働力率が将来どのような水準になるかを見通すためには、それをとりまく諸条件の将来の状況を見通すことが必要である。今回は、そのような複雑な部分についての精密な作業は他の機会にゆずることとし、後に「II. 推計の方法」で述べるように、過去10年間にみられたトレンドを主たるよりどころとして、今後10年間の将来を見通すという方針をとった。

このように、トレンドに重点をおいて計算を行なうために、今回労働力率の推計は「労働力調査」をベースにした。この点がかつて人口問題研究所の労働力人口の将来推計において国勢調査による勞

* この推計の資料収集、計算、製表は人口政策部推計科山本千鶴子技官の手になるものである。

働力率がベースになっていたのと異なる点である。

以上のような推計の目的から明らかなように、この推計結果は、基本的には、人口規模とその構成の将来変化を大きな前提条件とし、それに、将来において見通される男女年齢別労働力率をかみ合わせることによって、将来労働力人口の規模と構成を展望しようとしたものであるといつてよい。

II 推計の方法

1 推計の方法は次のような手続による。

- (1) 人口問題研究所「日本の将来推計人口—全国男女年齢別、昭和50～125年—」（昭和51年11月推計）に発表されている全国人口推計値のうち中間推計値を基礎人口として採用する。
- (2) 総理府統計局「労働力調査」の昭和40～49年の男女年齢別労働力率の推移を基礎にし、下のような方法により、将来の労働力率を推計する。
- (3) 人口と労働力率の積により労働力人口を計算する。
- (4) 推計期間は昭和50年から昭和60年までとする。
- (5) 年齢階級は15歳から64歳まで5歳間隔とし、65歳以上は一括する。

表1 労働力率の推移 —男女年齢別—
Table 1. Trend of Labour Force Participation Rates
—By Sex and Age—

性	15～19歳	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65以上
男											
昭40	36.3	85.8	96.8	97.0	97.1	97.0	96.8	95.0	90.0	82.8	56.3
41	37.9	85.7	96.9	97.2	97.2	96.9	96.4	95.4	90.4	82.5	56.0
42	36.9	83.6	96.7	97.4	97.2	97.5	97.3	95.4	86.3		54.5
43	37.0	82.2	97.5	98.0	97.8	97.5	97.4	96.2	91.1	81.9	52.1
44	33.7	80.4	97.2	97.7	97.7	97.7	97.2	96.1	91.6	82.2	51.3
45	31.4	80.5	97.2	98.0	97.7	97.5	97.1	96.0	91.4	81.4	43.4
46	30.6	81.3	97.6	98.1	97.8	97.7	97.0	96.2	92.3	81.4	48.1
47	27.3	81.2	97.0	98.0	98.0	97.6	97.2	95.8	92.0	80.1	47.0
48	25.2	79.5	96.9	98.1	98.1	98.0	97.2	96.0	92.2	81.0	46.7
49	23.6	77.7	96.5	98.1	98.0	97.8	97.2	95.8	92.0	80.6	45.6
女											
40	35.8	70.2	49.0	51.1	59.6	63.2	60.9	55.8	49.8	39.8	21.6
41	38.0	70.1	48.7	50.6	59.1	64.1	62.3	57.5	50.2	40.4	21.7
42	38.8	70.0	49.2	51.1	58.0	63.3	63.1	58.2	46.4		21.6
43	38.1	70.1	48.0	49.6	58.5	64.2	63.3	57.9	49.6	39.4	18.9
44	35.0	70.0	47.0	48.9	57.6	63.8	63.0	57.9	49.6	39.0	18.5
45	33.6	70.5	45.6	48.2	57.5	63.0	63.0	58.6	48.8	39.1	18.0
46	31.7	69.1	43.3	46.2	55.8	62.2	62.0	57.7	50.3	38.6	16.6
47	28.5	67.4	43.0	45.7	55.4	62.0	62.2	57.2	49.0	37.6	15.6
48	27.9	67.1	44.5	46.8	56.8	62.2	62.7	58.5	50.2	38.1	16.9
49	24.0	65.6	43.3	44.9	54.8	60.7	62.7	57.2	49.0	37.7	15.8

〔資料〕総理府統計局「労働力調査」

2 労働力率の推計方法

(1) 「労働力調査」の昭和40～49年の各年平均の男女年齢別労働力率は次の表1のように推移している。

表1に示されている昭和40年以降の推移から判断して、将来の労働力率を推計するにつき次の2群に分類した。

(A) 時系列的変化がきわめて小さく、したがって昭和49年の値を将来に延長して適用して考えられるもの。

男：25～29歳，30～34歳，35～39歳，40～44歳，45～49歳，50～54歳，55～59歳，60～64歳
女：25～29歳，45～49歳，50～54歳，55～59歳，60～64歳，65歳以上

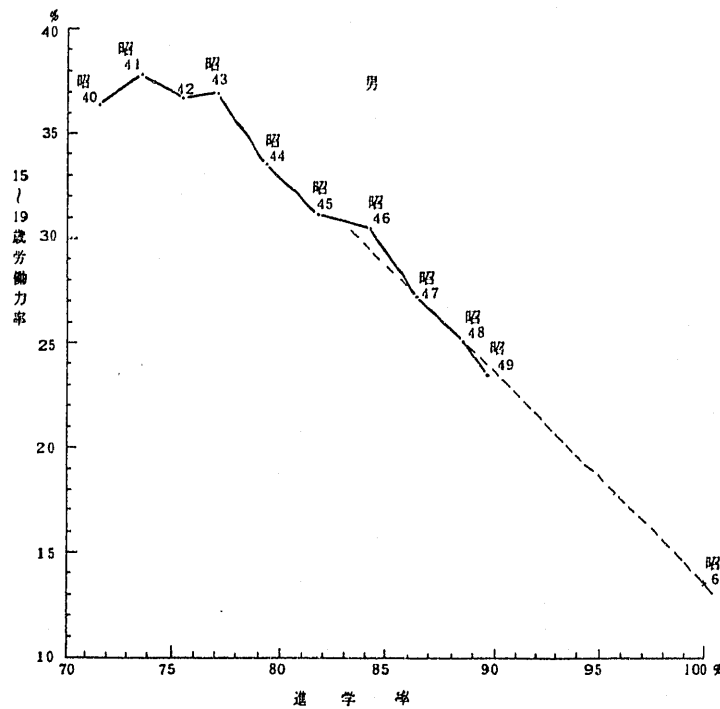
(B) 時系列的変化が大きく、したがって何らかの方法で将来推計をする必要があると考えられるもの。

男：15～19歳，20～24歳，65歳以上

女：15～19歳，20～24歳，30～34歳，35～39歳，40～44歳

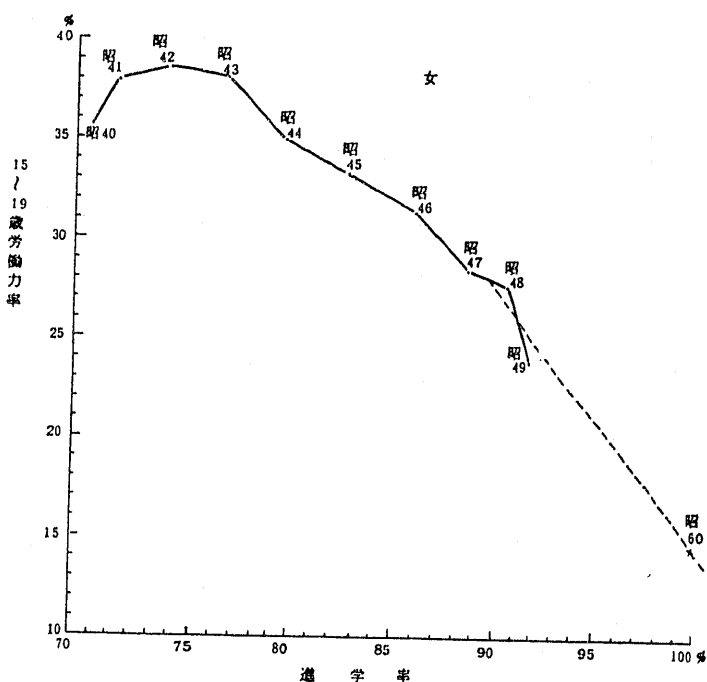
(2) 労働力率を別途推計した(B)群について、さらに2群に分け、(a)男15～19歳および女15～19歳は中学校卒業後高校への進学率との関係に基づいて推計するものと(b)それ以外の年齢について農林業就業者割合との関係に基づいて推計するものに分ける。

図1-1 15～19歳労働力率と進学率
Chart 1-1. Labour Force Participation Rate and Entering Rate to High School - Male Aged 15-19 Years -



[資料] 表2による

図1-2 15～19歳労働力率と進学率
Chart 1-2. Labour Force Participation Rate and Entering Rate to High School-Female Aged 15-19 Years-



(資料) 表2による

(8) 男15～19歳, 女15～19歳の労働力率の推計方法と結果

(a) 進学率と労働力率との関係

中卒後高校への進学率と15～19歳労働力率との間の関係は表2および図1-1(男), 図1-2(女)に示されているようになっている。とくに図において明らかなように, この関係は最近の数年間ほぼ直線的であり, これを将来に延長推計することが可能であると判断される。男については昭和47～48年の線上に, また女については昭和47～48年の平均値と昭和48～49年の平均値を結ぶ線上に将来の値を読みとることにする。

表2 15～19歳労働力率と進学率の関係
Table 2 Relationship between Labour Force Participation Rate of Population Aged 15-19 Years and Entering Rate to High School

年次	男		女	
	15～19歳労働力率	進学率	15～19歳労働力率	進学率
昭40.3	36.3%	71.7%	35.8%	69.6%
41.3	37.9	73.5	38.0	71.2
42.3	36.9	75.3	38.8	73.7
43.3	37.0	77.0	38.1	76.5
44.3	33.7	79.2	35.0	79.5
45.3	31.4	81.6	33.6	82.7
46.3	30.6	84.1	31.7	85.9
47.3	27.3	86.2	28.5	88.2
48.3	25.2	88.3	27.9	90.6
49.3	23.6	89.7	24.0	91.9

(b) 将来の進学率の見通し

文部省『学校基本調査』による毎年3月の中学卒業者の高校への進学率(就職進学者を含む)は表2に示されておりであるので, 昭和60年には, これが男, 女とも100%に達するものと仮定し, 昭和49年3月の実績値を昭和60年の測定値100%と結んだ線上に将来の進学率を

〔資料〕労働力率は「労働力調査」, 進学率(中卒→高校)は就職進学者を含み, 文部省「学校基本調査」による。

表3 進学率の予測値
Table 3 Estimated Rates of Entering to High School

年次	男	女
昭50	90.0%	92.5%
51	92.0	93.0
52	92.5	93.5
53	93.0	94.5
54	94.0	95.5
55	95.0	96.0
56	96.0	97.0
57	97.0	97.5
58	98.0	98.0
59	99.0	99.0
60	100.0	100.0

推計方法は本文参照.

表4 15~19歳労働力率の予測値
Table 4 Estimated Rates of Labour Force Participation of Population Aged 15-19 Years

年次	男	女
昭50	24.0%	24.3%
51	21.5	23.7
52	21.2	22.1
53	20.6	21.8
54	19.6	20.5
55	18.6	19.5
56	17.6	18.6
57	16.6	18.0
58	15.6	17.4
59	14.6	16.1
60	13.6	14.8

推計方法は本文参照.

読みとった。その結果えられた各年次の進学率は表3のとおりである。

(c) 将来の15~19歳労働力率の予測

(a), (b)の手續によって予測された15~19歳労働力率の将来値は表4のとおりである。

(4) 農林業就業者割合との関係に基づく労働力率の推計方法と結果 — 男20~24歳, 65歳以上, 女20~24歳, 30~34歳, 35~39歳, 40~44歳—

(a) 農林業就業者割合と労働力率との関係

これらの年齢の労働力率はここ数年間かなり激しい変化を示しているが、その背景に働いている要因を突きとめることは必ずしも容易でない。ここでは、将来見通しをたてる必要上、そ

図2-1 農林業就業者割合と労働力率との関係 — 男20~24歳—
Chart 2-1 Proportion Working in Agriculture and Forestry and Labour Force Participation Rate -Male, 20-24 Years Old-

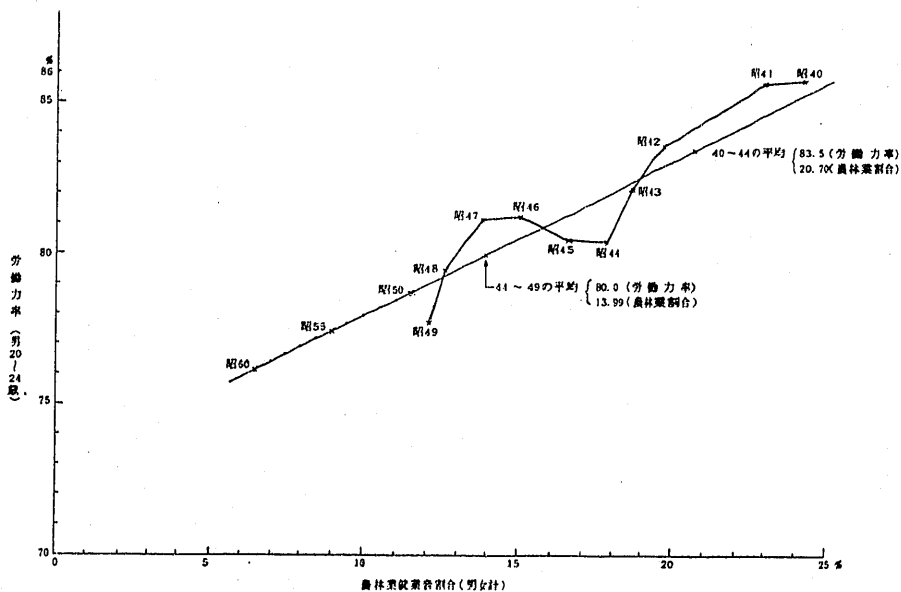


図 2-2 農林業就業者割合と労働力率との関係 —男65歳以上—
 Chart 2-2 Proportion Working in Agriculture and Forestry and Labour Force Participation Rate -Male, 65 Years and Over -

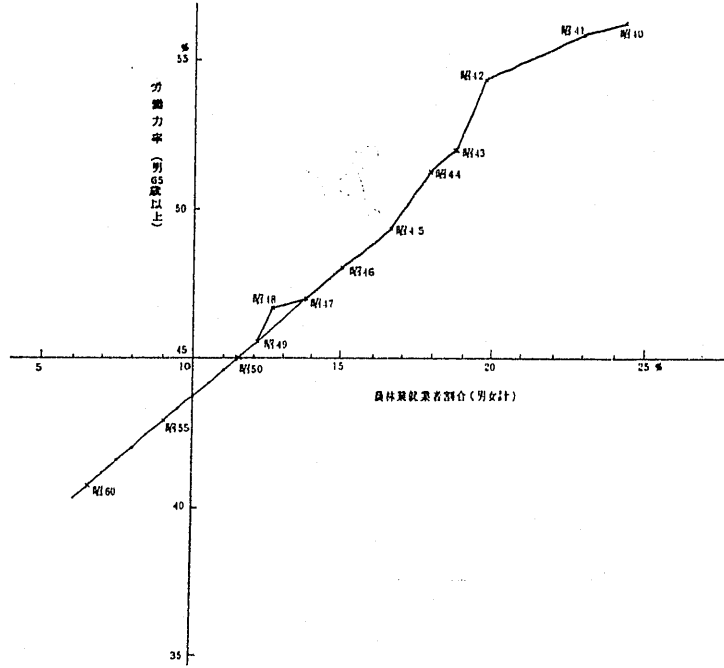


図 2-3 農林業就業者割合と労働力率との関係 —女20~24歳—
 Chart 2-3 Proportion Working in Agriculture and Forestry and Labour Force Participation Rate -Female, 20-24 Years Old-

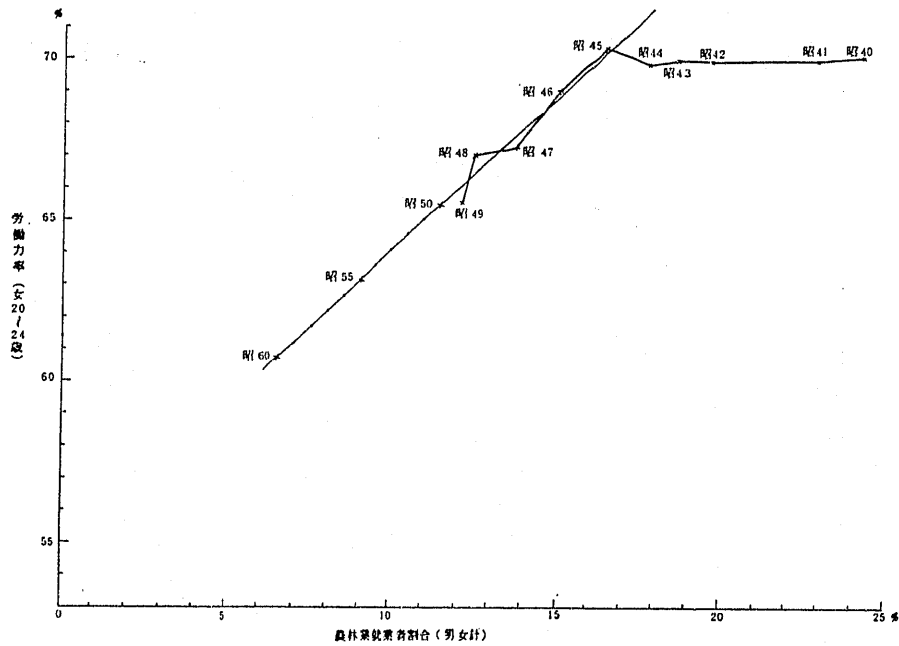


図2-4 農林業就業者割合と労働力率の関係 —女30~34歳—
 Chart 2-4 Proportion Working in Agriculture and Forestry and Labour Force Participation Rate -Female, 30-34 Years Old-

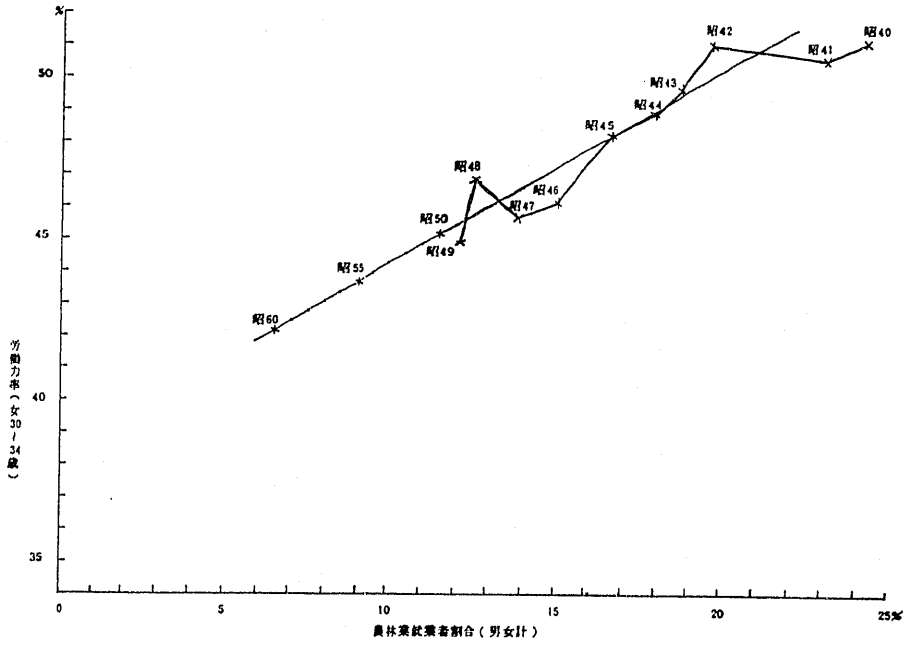


図2-5 農林業就業者割合と労働力率との関係 —女35~39歳—
 Chart 2-5 Proportion Working in Agriculture and Forestry and Labour Force Participation Rate -Female, 35-39 Years Old-

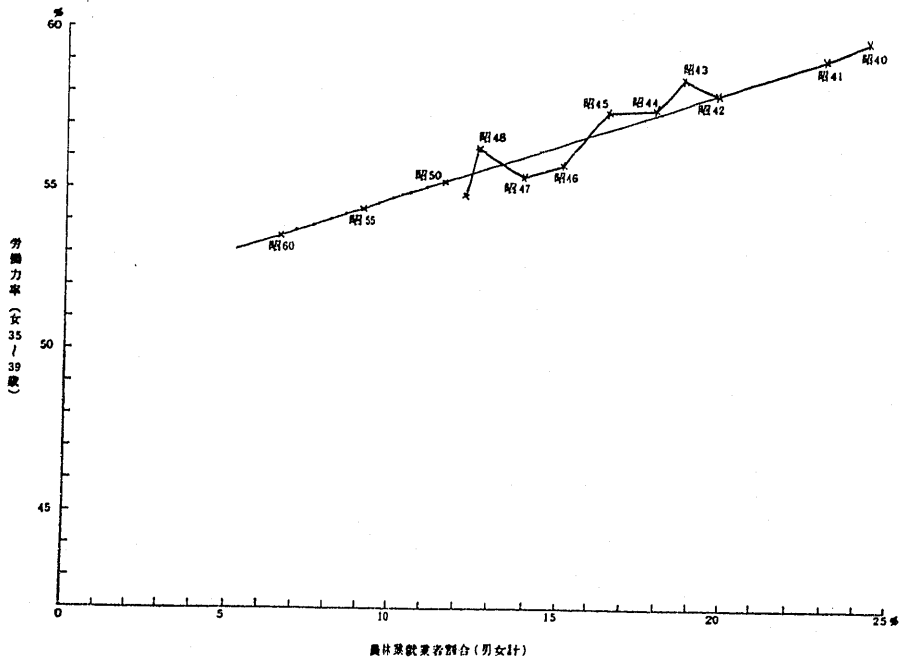
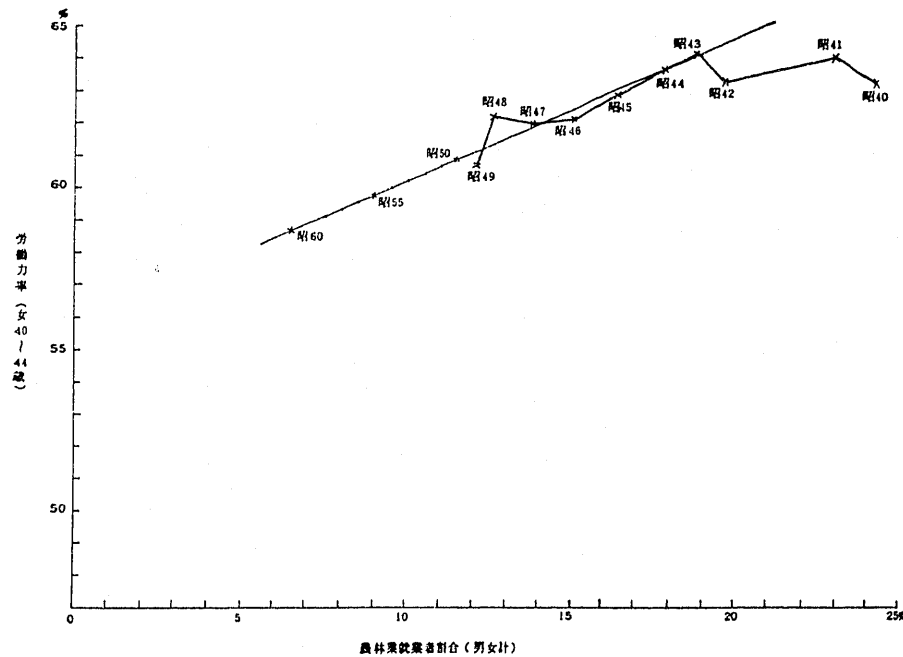


図2-6 農林業就業者割合と労働力率の関係 —女40~44歳—
 Chart 2-6 Proportion Working in Agriculture and Forestry and Labour Force Participation Rate -Female 40-44 Years Old-



の変化が経済的社会的環境の変化によって引き起されているという前提のもとに、一つの代表的指標として就業者総数における農林業就業者割合（男女計）をとり、それと労働力率との間の関係を確認することにする。

「労働力調査」による農林業就業者割合の推移は表5のようになっており、これと各年齢労働力率との関係は図2に示されているとおりである。

図2により、可能なかぎり昭和40年以降の全期間にあてはまる回帰線を求め、それが困難な場合は最近の数年間の実績にあてはまる回帰線を求めた。図において細線で描かれているのが

表5 農林業就業者割合の推移
 Table 5 Trend of Proportion Working in Agriculture and Forestry

年次	農林業	全産業	農林業の割合
昭40	1,154万人	4,748万人	24.3%
41	1,114	4,847	23.0
42	970	4,920	19.7
43	934	5,002	18.7
44	899	5,040	17.8
45	842	5,094	16.5
46	768	5,114	15.0
47	705	5,109	13.8
48	656	5,233	12.5
49	628	5,201	12.1

〔注〕48, 49年は沖縄を含む。

〔資料〕「労働力調査」

表6 農林業就業者割合の予測
 Table 6 Estimated Proportions Working in Agriculture and Forestry

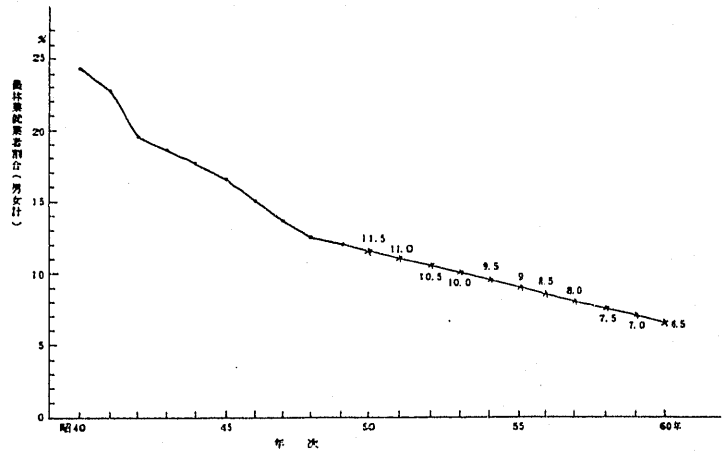
昭50	11.5%
51	11.0
52	10.5
53	10.0
54	9.5
55	9.0
56	8.5
57	8.0
58	7.5
59	7.0
60	6.5

〔注〕労働力調査ベース。計算方法は本文参照。

それであり、この線上に将来の労働力率を予測する。もちろん、この場合、将来の農林業就業者割合を別途予測する必要がある。

(b) 農林業就業者割合の将来予測
表5に示されている農林業就業者割合の推移を基礎にして、とくに昭和48~49年の低下を将来に延長して、図3のように将来年次における農林業就業者割合を予測する。予測結果は表6に示されている。

図3 農林業就業者割合の将来予測
Chart 3 Estimation of Proportion Working in Agriculture and Forestry



(6) 総括—男女年齢別労働力率の将来予測—

以上のような方法によって求めた男女年齢別労働力率の将来予測を一括して表示すると、表7のとおりになる。

表7 推計労働力率—男女、年齢別—
Table 7 Estimated Rates of Labour Force Participation -By Sex and Age-

年齢	昭 51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
男										
歳										
15~19	21.5	21.2	20.6	19.6	18.6	17.6	16.6	15.6	14.6	13.6
20~24	78.5	78.2	78.0	77.7	77.4	77.2	76.9	76.7	76.4	76.1
25~29	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5
30~34	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1
35~39	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
40~44	97.8	97.8	97.8	97.8	97.8	97.8	97.8	97.8	97.8	97.8
45~49	97.2	97.2	97.2	97.2	97.2	97.2	97.2	97.2	97.2	97.2
50~54	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8
55~59	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
60~64	80.6	80.6	80.6	80.6	80.6	80.6	80.6	80.6	80.6	80.6
65以上	44.6	44.1	43.8	43.3	43.0	42.5	42.0	41.6	41.2	40.8
女										
歳										
15~19	23.7	22.1	21.8	20.5	19.5	18.6	18.0	17.4	16.1	14.8
20~24	65.1	64.6	64.1	63.6	63.2	62.7	62.3	61.7	61.2	60.7
25~29	43.3	43.3	43.3	43.3	43.3	43.3	43.3	43.3	43.3	43.3
30~34	44.8	44.5	44.2	43.9	43.6	43.3	43.0	42.7	42.5	42.1
35~39	55.1	54.9	54.7	54.6	54.4	54.2	54.0	53.9	53.7	53.6
40~44	60.7	60.5	60.3	60.0	59.8	59.6	59.3	59.1	58.9	58.7
45~49	62.7	62.7	62.7	62.7	62.7	62.7	62.7	62.7	62.7	62.7
50~54	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2
55~59	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0
60~64	37.7	37.7	37.7	37.7	37.7	37.7	37.7	37.7	37.7	37.7
65以上	15.8	15.8	15.8	15.8	15.8	15.8	15.8	15.8	15.8	15.8

表8 将来労働力人口
Table 8 Future Labour Force Populations

年 齢	(1) 人 口 (千人)			(2) 労働力率(%)			(3) 労働力人口(千人)			(4) 人口増加率(%)		(5) 労働力人口増加率(%)		
	50年	55	60	50	55	60	50	55	60	50~55	55~60	50~55	55~60	
総 数	15~19	7,904	8,255	8,933	22.8	19.0	14.2	1,801	1,572	1,267	4.4	8.2	△12.7	△19.4
	20~24	9,088	7,880	8,230	72.8	70.4	68.6	6,617	5,551	5,642	△13.3	4.4	△16.1	1.6
	25~29	10,870	9,055	7,853	70.9	70.0	70.4	7,706	6,341	5,529	△16.7	△13.3	△17.7	△12.8
	30~34	9,263	10,824	9,018	70.9	71.1	70.2	6,563	7,698	6,330	16.9	△16.7	17.3	△17.8
	35~39	8,422	9,210	10,766	75.8	76.1	76.0	6,386	7,013	8,180	9.4	16.9	9.8	16.6
	40~44	8,210	8,346	9,134	78.9	78.8	78.2	6,479	6,573	7,139	1.7	9.4	1.5	8.6
	45~49	7,354	8,095	8,235	80.1	80.0	79.8	5,892	6,473	6,575	10.1	1.7	9.9	1.6
	50~54	5,807	7,199	7,928	76.3	76.3	76.4	4,429	5,492	6,056	24.0	10.1	24.0	10.3
	55~59	4,648	5,623	6,967	76.3	68.3	70.1	3,266	3,841	4,881	21.0	23.9	17.6	27.1
	60~64	4,277	4,412	5,345	59.8	56.4	56.7	2,557	2,488	3,028	3.2	21.1	△2.7	21.7
	65以上	8,858	10,436	11,909	30.2	27.3	26.0	2,679	2,846	3,102	17.8	14.1	6.2	9.0
	合 計	84,701	89,334	94,319	64.2	62.6	61.2	54,375	55,888	57,729	5.5	5.6	2.8	3.3
	男	15~19	4,037	4,218	4,572	23.0	18.6	13.6	928	785	622	4.5	8.4	△15.4
20~24		4,569	4,019	4,200	79.0	77.4	76.1	3,610	3,111	3,196	△12.0	4.5	△13.8	2.7
25~29		5,493	4,548	4,001	97.7	96.5	96.5	5,369	4,389	3,861	△17.2	△12.0	△18.3	△12.0
30~34		4,627	5,465	4,524	98.8	98.1	98.1	4,572	5,361	4,438	18.1	△17.2	17.3	△17.2
35~39		4,212	4,594	5,428	98.7	98.0	98.0	4,159	4,502	5,319	9.1	18.2	8.2	18.1
40~44		4,125	4,164	4,546	98.4	97.8	97.8	4,060	4,072	4,446	0.9	9.2	0.3	9.2
45~49		3,658	4,050	4,092	98.2	97.2	97.2	3,593	3,937	3,977	10.7	1.0	9.6	1.0
50~54		2,635	3,559	3,943	97.5	95.8	95.8	2,569	3,410	3,777	35.1	10.8	32.7	10.8
55~59		2,061	2,526	3,411	94.9	92.0	92.0	1,955	2,324	3,138	22.6	35.0	18.9	35.0
60~64		1,922	1,922	2,360	85.4	80.6	80.6	1,641	1,549	1,902	0	22.8	△5.6	22.8
65以上		3,837	4,403	4,879	49.5	43.0	40.8	1,900	1,893	1,991	14.8	10.8	△0.4	5.2
合 計		41,176	43,468	45,956	83.4	81.3	79.8	34,357	35,333	36,667	5.6	5.7	2.8	3.8
女		15~19	3,868	4,037	4,361	22.6	19.5	14.8	873	787	645	4.4	8.0	△9.9
	20~24	4,518	3,861	4,030	66.6	63.2	60.7	3,007	2,440	2,446	△14.5	4.4	△18.9	0.2
	25~29	5,377	4,507	3,852	43.5	43.3	43.3	2,337	1,952	1,668	△16.2	△14.5	△16.5	△14.5
	30~34	4,636	5,360	4,494	42.9	43.6	42.1	1,991	2,337	1,892	15.6	△16.2	17.4	△19.0
	35~39	4,210	4,616	5,338	52.9	54.4	53.6	2,227	2,511	2,861	9.6	15.6	12.8	13.9
	40~44	4,085	4,183	4,588	59.2	59.8	58.7	2,419	2,501	2,693	2.4	9.7	3.4	7.7
	45~49	3,696	4,044	4,143	62.2	62.7	62.7	2,299	2,536	2,598	9.4	2.4	10.3	2.4
	50~54	3,172	3,640	3,985	58.6	57.2	57.2	1,860	2,082	2,279	14.8	9.5	11.9	9.5
	55~59	2,587	3,096	3,557	50.7	49.0	49.0	1,311	1,517	1,743	19.7	14.9	15.7	14.9
	60~64	2,354	2,490	2,986	38.9	37.7	37.7	916	939	1,126	5.8	19.9	2.5	19.9
	65以上	5,022	6,032	7,031	15.5	15.8	15.8	779	953	1,111	20.1	16.6	22.3	16.6
	合 計	43,525	45,866	48,365	46.0	44.8	43.5	20,018	20,555	21,062	5.4	5.4	2.7	2.5

〔資料〕 昭和50年は、昭和50年国勢調査1%集計結果による。

昭和55、60年の労働力率は、『労働力人口の将来推計—昭和50年7月推計』（人口研究資料第211号）による。

Ⅲ 推計の結果

前節で説明された方法により推計された労働力率を将来推計人口に掛けることにより、将来労働力人口を計算した。この計算に用いられた将来推計人口は人口問題研究所『日本の将来推計人口—全国男女年齢別、昭和50～125年』（昭和51年11月）であり、その値は表8の1欄に示されている。そして、将来労働力人口の推計値は表8の2欄に示されている。

この結果について次の点を指摘することが出来る。

第1に、労働力人口の増加率であるが、表8の5欄に示されているように、昭和50年代には、全体的に労働力人口の増加率は低水準であるが、とくに若年層において減少がみられること、また、ベビー・ブームの出生コーホートが通過する年齢において大きな変動がみられることに注目すべきである。

第2に、労働力人口の年齢構成は、表9に示されているとおり、次第に若年齢層の割合の低下、中高年齢層の割合の上昇が進むのが特徴的である。

表9 労働力人口の年齢構成 (％)
Table 9 Age Structure of Labour Force Populations

年 齢	総 数			男			女			
	50	55	60	50	55	60	50	55	60	
労働 力 人 口	15～19	3.3	2.8	2.2	2.7	2.2	1.7	4.4	3.8	3.1
	20～24	12.2	8.9	9.8	10.5	8.8	8.7	15.0	11.9	11.6
	25～29	14.2	11.3	9.6	15.6	12.4	10.5	11.7	9.5	7.9
	30～34	12.1	13.8	11.0	13.3	15.2	12.1	9.9	11.4	9.0
	35～39	11.7	12.5	14.2	12.1	12.7	14.5	11.1	12.2	13.6
	40～44	11.9	11.8	12.4	11.8	11.5	12.1	12.1	12.2	13.6
	45～49	10.8	11.6	11.4	10.5	11.1	10.8	11.5	12.3	12.3
	50～54	8.1	9.8	10.5	7.5	9.7	10.3	9.3	10.1	10.8
	55～59	6.0	6.9	8.5	5.7	6.6	8.6	6.5	7.4	8.3
	60～64	4.7	4.5	5.2	4.8	4.4	5.2	4.6	4.6	5.3
65以上	4.9	5.1	5.4	5.5	5.4	5.4	3.9	4.6	5.3	
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

Projections of Labour Force Populations for 1980 and 1985

Yoichi OKAZAKI

Future labour force populations are usually estimated on the basis of estimated future populations by sex and age, taking into consideration future levels of labour force participation rates by sex and age which are estimated by some appropriate methods.

Recently future population projections by sex and age were revised and officially published by the Institute of Population Problems, as *Future Population Projections for Japan, Projected in November 1976* (Institute of Population Problems, Research Series, No. 213, November 20, 1976). At this opportunity, future labour force populations were re-estimated on the basis of the new future populations.

As for labour force participation rates by sex and age which are necessary to estimate labour force populations, it was decided that the old set of participation rates by sex and age which were used for the old estimation of labour force populations published in July 1975 would be applied, because levels of those rates were judged as still appropriate at this moment.

As well known, some parts of participation rates by sex and age remain almost unchanged over time, independently of socio-economic circumstances, for example, male participation rates of 25 to 54 years of age are always very high. Also some other parts of participation rates follow a rather regular trend lines and it is easy to foresee their future levels. Only some parts of participation rates, however, are rather difficult to foresee, because they deeply depend upon future economic and social situations.

In our new estimation of labour force populations, it was decided that future participation rates were estimated in relation to changes of economic structure which would be expressed by distribution of workers among industries only for three age groups of male (15-19, 20-24, 65 and over) and for five age groups of female (15-19, 20-24, 30-34, 35-39, 40-44). For other age groups, a simple trend-line method was applied to foresee their future participation rates.

Estimated rate of labour force participation are shown in Table 7, by sex and age. In this Table, a rapid decline of participation rates in groups of 15-19 years old of both sexes may be impressive. This is because school enrollment rates are rapidly rising now and in future.

In Table 8, column 1, estimated labour force populations are presented.

The following points may be pointed out as major characteristics of the future labour force populations.

1. As shown in Table 8, column 5, rates of increase of labour force population as a whole are low, compared with the past period. Particularly, the number of young labour force populations in 15-19 years old and some other age groups will be decreasing in the next ten years.

2. At the same time, age structure of labour force populations will be gradually aging during the future two decades.